

# 農家と消費者が共に探し出す 持続可能な食

地場素材活用の価値、在来作物で食文化醸成、水田生態系保全

(公財) みやぎ環境とくらしネットワーク(MELON)理事  
三浦農園 三浦隆弘





# 仙台せり鍋はムーブメント

## □ 自己紹介

## □ 「せり鍋」の過去、今、これから

- セリ鍋論概略、自然再興
- そのものの経緯、契機
- 仙台の独自性、前例
- 展開の難しさ、品質管理の苦勞
- 地域連携、波及効果、地域価値共創
- 土着性、地域性、季節性、ローカルプライド
- これから、食文化醸成、その先は

# 宮城県名取市 セリ

## □ ＜春の七草 万葉集 日本原産野菜＞

- ・ お正月の行事料理「仙台雑煮」「七草粥」

日本最大の産地宮城県。名取は県内最大産地。

R2年収穫量全国1070tのうち宮城県424t。

上余田村の肝煎が1776年に記した文献で、  
1620年からセリ栽培が始まっていたと記載。

# 伝統野菜、在来作物の魅力

## 「おいしい生きた文化財」

- ・ 地域固有性の高い独自の地域資源。

保存・継承で食文化の発掘、  
食生活提案、食産業活性化へ。

「時間」「場所」「食育教材」そして  
「かけがえのなさ（代替不可能性）」

地域に誇りを持ち世界へ向けて、  
交流を促す力、求心力を育てる。

食材、商材でなく地域を学びあう教材

# セリ田の多様な生態系マンダラ

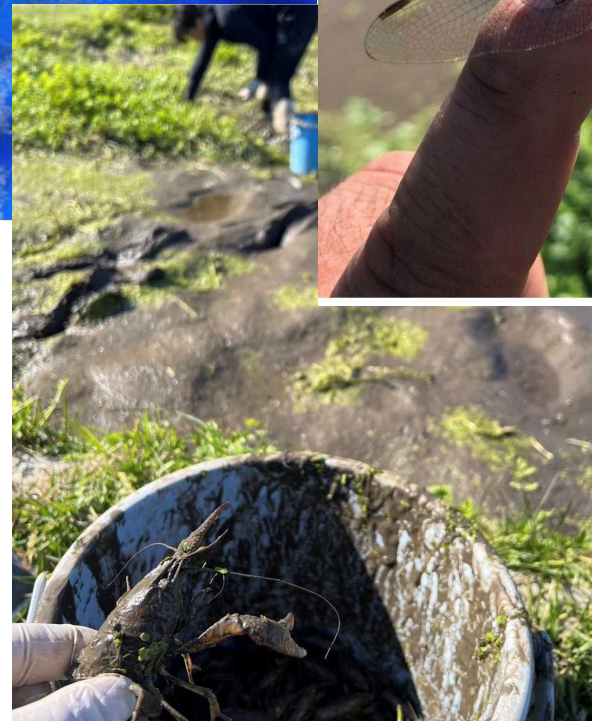
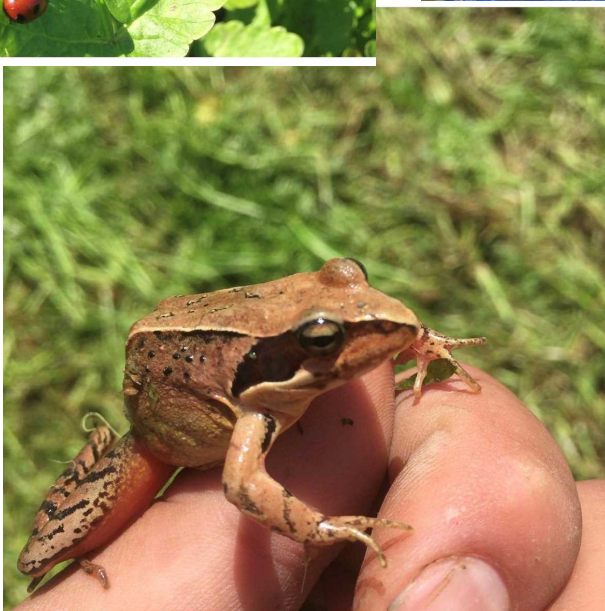
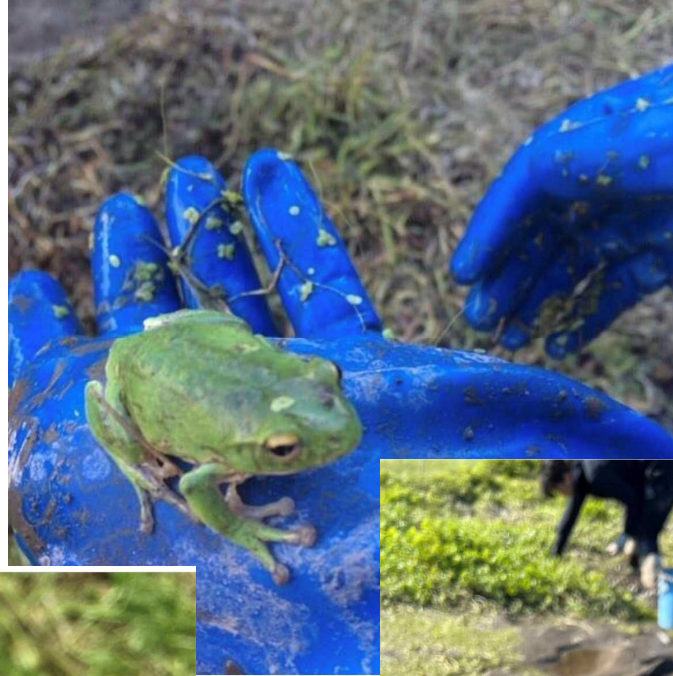
- 餌場、寝ぐら、繁殖地 田とイグネ回廊
- 希少な野生動植物の生息地、分解者
- 2024年は「湿地と人間の幸福（Wetlands and Human Wellbeing）」が世界湿地の日のテーマ。

水田は多様な生きものにとって大変重要な人工的な湿地。食料生産の場でもあり、人間に多大な幸福をもたらす。

- ニッポンの里山ふるさとの絶景に出会う旅「命にぎわうセリの田んぼ 宮城県 名取市」 NHK2017、2024再放送



# セリを食べると生息地保全に



イチョウウキゴケ  
ヒメゲンゴロウ  
多種のクモ  
シギサギ類

アメリカザリガ



# 仙台セリのしゃぶしゃぶ鍋

- ・「根が主役」「地場、地元資本の店で」
- ・セリ鍋はブームからムーブメントへ



# セリ鍋ブームの変遷(仮)

- ・ 始まりは03、04年。口コミとSNS
- ・ 広がるお店、08、09年に急増
- ・ 震災による需要拡大と引き受けた役割
- ・ 多種多様な参入による粗製乱造危機
- ・ 「地の場、地の店、地の資本」
- ・ 東日本ぜんたいの商材に
- ・ 「仙台ならでは」を欲する仙台
- ・ 身銭切って食べ支えて頂けたからこそ



# これからの課題

- 生産消費、質量ともに不安定 育成急務
- 飲食会食需要、国内外観光需要、家庭需要
- 震災から10数年で定番、陳腐化
- 飲食店急拡大で食品事故リスク
- 稲作栽培条件不利水田でスマート農業
- ローカルガストロノミー、テロワール、スローフード。食文化醸成、定着へ
- 人も野菜も根がだいじ。

# 農家と八百屋と飲食店と

肴町匙



一例＞  
畑から食卓へ、  
フードバリュー  
チェーン協調

地域飲食店の、  
社会教育的「場」  
食育食文化、  
学び合いの拠点へ

現場  
現実  
現物。  
Itの次のリアル

ハブ化による、  
結合利益



# 農民性の理想像

EU農業政策より抜粋

## □ 持続性と安定性

- ・次世代に対する責任
- ・「子供達から預かった大地」
- ・循環に関係付けられた農業経営・健康な土壌の維持

## □ 多様性

- ・危険の調整
- ・所得形態と生活形態の多様性

## □ 生活に対する責任

- ・自分自身の生活に対する誇り
- ・他社の生活需要に対する尊重

## □ 生活空間との結合性

- ・自分の土地
- ・土地、植物、動物との個人的な繋がり
- ・自分の故郷の世代的継承
- ・これらの「故郷」の総計＝文化景観、文化景域

国連「家族農業の10年」と「小農の権利宣言」、  
欧州グリーンディール「農場から食卓へ」、多種多様な農業



# 地域農業の個性、多様性

## 旬に本場に地元資本に 地域内で田んぼと台所をつなぐ、 生物多様性と食文化を醸す

